Mindanao Children's Library Foundation, Inc. SEC REG . NO. CN20031 5083

２０１０年７月号・季刊２８号

ミンダナオの風

執筆編集＊松居友　　発行：ミンダナオ子ども図書館

ジェジェ
山の村で頑張って小学校を卒業
４時半に家を出て
１０キロの山道を高校に通う。
移民政策とグローバル化をともなった
バナナやゴムのプランテーションで
平地を追われたマノボ族。
ここの子たちは、米のご飯どころか
芋すら三食たべられない
お弁当も持って行けない
エンピツも消しゴムも
定規も買えない
それでも一人、頑張って、高校に通う。
「ＭＣＬに移り住んで学校に通うかい？」
満面笑顔で、うなづく
「ほらっ」手を差し出し微笑む
アレッ、指が６本ある！
「足も６ッ本、指があるの」
「手術でとる？」と聞くと
激しく首をふった。
ＭＣＬについて数日後、
他の子から借りた初めてのマニュキア
６ッ本目の指にとりわけきれいな金色の粉！
僕の前に手を差しだすと
深く優しい笑顔で微笑んだ。
母さんからもらった大事な６ッ本目の指

Mindanao Children's Libary Foundation, Inc.
MCL

MCLジャパンが出来た

7月10日決起総会が終わった。代表理事の藤瀬さん、副代表の追立さん、山本さん、一般理事は、なじみの山元しんぷさん、ルイ神父さん等のお力添えで、決起総会と同時にNPO法人化へ向けての定款が最終審議され、15日には役所に提出される事になった。順調にいけば、今年の11月頃までに法人化を完了。支援者の寄付に対する確認のお礼の葉書、会計の流れも、スムーズに動きはじめた。

皆さんが支援して下さっている子どもたちへの質問や疑問、現地訪問への希望などは松居友が引き受けます。現地でも日本でも受信できる直通の携帯電話を用意した他、現地ファクスも配備、今までのメール同様に気軽にご連絡下さい。

IT化をフルに活用する事によって、無駄な経費を削減。国境を越えた事務の効率化を行う事によって、皆さんの寄付を、現地の子どもたちに100%届ける工夫をこれからも行っていきます。現地で活動している私を含め、理事は全て無給のボランティア！

追伸＊ご要望が強く、小学校里親のプレゼント届けを再開します。ただし、子どもからのお礼の手紙は、早くて半年ぐらい後の季刊誌に同封！

新学年が始まった

ミンダナオでは、新学年は6月から始まる。学校によって多少異なるが、授業は正式には、10日あたりから開始される。

新しく奨学生になった子たちも、小学生や高校生は、山の集落から学校に通い始める時期だし、大学生は、ミンダナオ子ども図書館で提供している町の下宿に戻ってくる。大きな変動の時期でもある。

ミンダナオ子ども図書館にも、新しい子たちが来た

ミンダナオ子ども図書館の家に住みたい希望の子たちは多い。理由の多くは、山の高校に通うには、はるかな道のりを歩いて通わなければならないから。そして、食べられないから。

カヨパトン集落のジェジェ。彼女は、左手の指が6本、両足の指が6本ある。マノボ族の女の子。カヨパトン集落から、小学校までは5キロの道のりだが、高校になると、早朝4時に家を出て、山の中腹まで10キロ以上の道を、毎日歩いて通わなければならない。

都会の道なら、平坦で人通りも多いが、薄暗い夕刻の山道を、一人、踏み痕を頼りに歩いて行くのは不安だ。小学校なら、

数名の学友がグループになって一緒に通えるけれども、極貧のマノボ族の村で、高校まで進学出来た子は彼女だけ。

ミンダナオ子ども図書館に住みこみで移れば、近くに小学校も高校もあるから、雨の日でも川が増水して渡れないと言ったこともなく、毎日元気に学校に通える。しかも、毎日の食事も提供するから、一日三食、驚くべき事に「お米のご飯」が食べられるのだ！

高校2年生のジョジョは、勉強熱心だし、両親は健在だが非常に貧しく、手の指や足の指が6本あるというハンディを背負っているから、将来、高校から大学に行った方が良いと判断した。

ジョジョは、MCL（ミンダナオ子ども図書館）に住めるという事がわかったとたん、大喜びした。

MCLに着いて、彼女の手を取り、手のひらの横から、奇妙に飛び出している6本目の指を見ながらたずねた。

「この指、使っているの？」

「いいえ」

「もし気になるようだったら、手術してとるかい？」

ジョジョは、強く首を横に振った。

翌日、ジョジョの手を見ると、他の子からもらったマニキュアが塗ってある。安物のマニキュアは、こちらの女の子たちのなけなしのオシャレなのだが、彼女の手を見ると、細い6本目の指と、足の

6本目の指に、とりわけきれいにマニキュアが塗ってあった。

余分の小さな指、大切にしているんだな。それが、何とも愛おしかった。

そんな気持ちをくんでか、彼女は持ち前の深く優しい目で微笑んだ。

今年度の住みこみの子どもたちの特徴は、学齢期前から小学校低学年の小さい子たちが、10名ほど増えたことだ。

こうした小さな子たちは、ほとんどが両親がいないか片親で、片親がいても子どもを育てきれないか、町に出たまま帰ってこないか、精神に異常をきたしてしまった親だったりする。

こう書くと悲惨だが、子どもたちは笑顔が可愛いし、ミンダナオ子ども図書館では、僕と妻の間に生まれた4歳と6歳のアイカとマイカとほぼ同年齢だったりするので、惨めさはあまり感じさせない。

左の写真を見てもわかるように、奥の大きなテーブルには、高校生までの子たちがスタッフを含めてほぼ90名座って食事をするが、それに加えて今年から、低い食卓が置かれるようになった。手前が小さな子たちの食卓。

小さな子たちは、僕が個人で家族のために建てたはずの、別棟に住んでいる。年齢が幼いだけに、家庭的な雰囲気が大切だと思ったからだが、多少は個人的空間が欲しいと思って建てた家なのに、すっかり小さい子たちの家庭に代わってしまった。僕と妻のエープリルリンは、パパとママと呼ばれているが、妻もそれを楽しんでいるようだし、「まあ、良いか、これも成り行きだ」と思っている。小さい子たちは本当に無邪気で可愛らしい。

小さいながら、それぞれいろいろな苦難を背負ってきた子たちだが、その中でジナ、ジェネロウス、ジェネリン3姉妹を紹介しよう。

彼らは、このあたりでは珍しい、アエタ族。よく、ダバオの町で物乞いをしている種族。3姉妹は、ときどき頭にのせたタライに野菜をつめて、ミンダナオ子ども図書館に野菜を売りに来ていたので、顔は知っていたのだが・・・

山の学校に学用品を届けた帰り、山道を下っていると向こうにタライを頭にのせて歩いている3姉妹が見えた。知った顔に思わず車を止めると、一番お茶目な末の子が駆け寄ってきた。

「どこに野菜売りに行くの？」

「ミンダナオ子ども図書館よ」

「学校は行かないの？」

「野菜を売って学用品を買わなくちゃ」

「お父さんは、仕事をしていないの？」

「お父さんは、死んだの」

よく聞くと、学校に通った経験がある子は、真ん中の子だけ。しかも、授業が午前中で終わると、午後から野菜を売り歩くので、学業が続けられないで、去年も一年生から上に進級していないことがわかった。他の二人は学校に行った経験がない。お金がないから・・・

「学校に行きたい？」と聞くと、三人とも大きく首をたてにふった。学校に行きたくて、去年の九月にMCLに応募した事もわかった。僕らは、彼らを車に乗せるとMCL（ミンダナオ子ども図書館）に向かった。着くとまずは、野菜を全部購入してから言った。

「さあ、ソーシャルワーカーのカティと一緒に君たちの家に行こう。」

ＭＣＬでは、奨学生を決定する前に、必ず家庭を見ることにしている。そのことによって家庭状況と貧困度が確実に把握できるからだ。

山道の途中で車を止めると、子どもたちは、ゴムの林に駆け込んでいった。すぐその先に家があると思いきや、さらに急坂を下り、踏み痕にそって渓流に降りた。周りは木が生い茂り、家があるとは思えない。その先のコンクリートの水溜を渡ると、何と木々で囲まれた森の斜面に、かろうじて建っているぼろぼろの家があった。

近づいて中を見ると、結構たくさんの人が住んでいる。聞くと、さらに４名の兄弟姉妹の他に、おじいさんおばあさん、母親と上のお姉さんと、その小さな赤ちゃんまでいる。ダバオの方から移動しつつ、所有者のはっきりしないこの谷間に移り住んだのだという。

「お兄さんはいないの？」祖父母は年を取っているので、兄弟の中に、父親に代わる働き手がいないかを確かめる。

「お兄ちゃんはいるけど、野菜が売れるとカラオケでお金を使ってしまう」

話から見えてきたのは、実に彼ら3人が、学用品どころか、小さな兄弟姉妹から祖父母まで、野菜を売って稼いで養っていることがわかってきた。子どもの野菜売りは、同情を引くので大人よりも稼ぎが良い？

ソーシャルワーカーのカティと目があった。同じ事を考えているなと思った。最初は、実家から学校に通う事を考えていたが、それでは、毎日学校から帰ったらすぐに野菜売りに出されるだろう。学業を続けるためには、ミンダナオ子ども図書館に住み込むしかない。

子どもたちに、ＭＣＬに住みたいかをたずねると、二つ返事で首をたてに振った。母親もＯＫだという。野菜は自分がＭＣＬに売りに行くという。

左写真の真ん中の３姉妹が当人たち・・・。

こうして、様々なドラマを背に、ミンダナオ子ども図書館に新たな奨学生たちがやってきた。

一人一人、その背景は、そこらの作り物の机上ドラマを読むよりも深く感動的なのだが、時には悲惨だし、逐一紹介していたらきりがない・・・

その中で高校生２６名、小学生８２名の支援者が見つかっていない。

「支援者が見つかっていない子たちはどうするのですか？」と、時々聞かれる。

登録された子たちは、支援者が見つかっていなくても、奨学金支給を開始する。学校に行けるように授業料を払い、手続きをするし、学用品も届ける。

僕の役割は、支援者が見つかるまで、探し続けることだ！

これは相当の重荷を背負い込むことなのだが、僕の最大の弱点は、悲惨な状況の中でもけなげに生きている子たちを見ると、どうしても放っておけない事。

まあ何とかなるさ、神様はちゃんと見ていて下さり、それなりの手を差し伸べて下さる方だから。

神頼みのどんぶり勘定で運営するなんて、本格的なＮＧＯとは、言えないのかもしれない・・・

皆さんにお願い！

まだ、高校生２６名、小学生 82 名の子どもたちが、支援者を待っています。

この冊子をお友達にも見せてあげて、支援者になって下さるように、お話しいただければ幸いです。

高校・大学スカラシップ支援は、月額５０００円（年額６万円）

小学校里親支援は、月額２０００円（年額２万４千円）

極貧の子や孤児を優先していますので、学費だけではなく、学用品、小遣い、下宿代や食費も含まれています。

支援方法は、郵便振替用紙に「スカラシップ」または「里親」と書いて

支援額の一部を振り込んでいただければ、折り返しご連絡をさしあげます。

郵便振替口座番号　00100　0　18057

加入者名　『ミンダナオ子ども図書館』

MCL ジャパン発足総会が開催された

７月１１日（日）ＭＣＬジャパン発足のための総会が、行橋カトリック教会において開催されました。

出席者数１１名。この場で、代表理事、副代表理事および監事、社員が決定。さらに設立趣旨書が承認され、代表理事によってすでに準備された『特定非営利活動法人　ＭＣＬジャパン　定款』が細部にわたり協議検討されました。その後、設立の初年度および翌年度の事業計画、収支予算も協議承認され。この結果を踏まえて、１５日には、ＮＰＯ法人の登録書類を役所に提出。順調に行けば今年１１月には、法人化を達成できる見込みです。

設立趣旨

競争原理主義社会といわれる現代社会の中にあって、勝者のみが脚光を浴び何らかの理由で社会的弱者となった人々に対して私たちはあまりにも無関心ではないだろうか・・・？先進国と言われる恵まれた環境の中にあっては、その陰で億単位の人々が人としての尊厳すら踏みにじられ、その犠牲の上に私達の豊かな生活が成り立っていることを気付いていません。海外には、まだまだ貧しい地域がたくさんあり、その日を暮らしてゆくことすらままならない子どもたちが沢山います。生活環境や食生活、医療環境の立ち遅れ等から周りの者からの支援がなければ生きてゆけない人々がたくさんいる状況にあります。

このような中で、自分に出来る事をたとえ小さな働きであったとしても始めたい、否、始めなければならないとの思いから、賛同者が集まり国内外ボランティアを行ってゆきたいと考えました。

これらの活動を行っていくためには、市民からの信頼・支援が重要であり、そのためにはＮＰＯ法人を設立することが最適だと考え、設立を決意しました。利己主義に陥りやすい現代社会の中において、助け合う事の大切さを再認識しながらボランティア活動を続けたいと願うものです。

設立代表者：藤瀬憲一

理念と目的

この法人は、若者と子どもたちを未来への希望の灯火と考え、戦闘と貧困のない世界で、彼らが愛と希望を持って生きられる社会を作るために努力する事を理念とする。

この法人は、日本の若者や子どもたちのために、生きる力と希望に満ちているフィリピンの若者や子どもたちの心に触れる機会を作り、出会いと共感を通して心の回復をはかるようなプロジェクトを模索、推進、実行する。これらの活動を通して地球上に共に生きる人間としての自覚を深め、地球とそこに住む人類の幸福を求め平和な世界を実現することを目的とする。

理事および監事は、以下の通り。

現地で活動している松居友を含め、全員が報酬無し、無給のボランティアとして参加します。

代表理事　藤瀬憲一　**副代表理事**　追立泰治　山本幸子

理事　山元眞　ベリオン・ルイ　松居友　井本美穂子　小田崎鉄雄　宮崎裕子

監事　臼井悦子

事務局所在地　〒８０３－０８１６　福岡県北九州市小倉北区金田２－８－３０－１２０１

ＭＣＬジャパン（ミンダナオ子ども図書館日本事務局）TEL・FAX　０９３－５８１－１１５０

なお、スカラシップに関する質問や、訪問その他に関する問合せは、
日本事務局の負担を極力軽減し、経費を現場の子どもたちに振り向けるためにも、
現地の松居友に直接メール、ファックス、携帯電話でご連絡いただければ幸いです。
携帯電話（現地および日本共通・直通）：０８０－５５０２－３４４６（松居友）
ファックス専用　KDD 利用 001010、ソフトバンク 010 の後に 63-64-288-5426（松居友）
Eメール：mclstaff@zar.att.ne.jp（松居友）

保育所建設が次々に完了

今年に入り、皆さんの支援で、ＭＣＬでは保育所を次々に建設し、極貧の地域の人々に喜ばれています。フィリピン政府が、保育所を経由しない子たちは小学校に入学出来ない、と言う規定を作って以来、ミンダナオの僻村では悲鳴に近い声が聞こえてくるようになりました。保育所の管轄は、教育省ではなく地方福祉局であり、バランガイと呼ばれる最小の地方自治体のさらに下、各集落が建設費用を負担する形態になっているためです。

マノボ族や戦闘の激しいイスラム地域では、村の中心部でさえも保育所建設費用がだせない場所も多く、さらに中心から１０キロも離れた山岳部の多くの集落では、貧困故に建設は不可能。３歳４歳の子どもたちが１０キロの道のりを毎日往復できるわけもなく、保育所に行けないがゆえに小学校に入れない、といった事態が起こっています。現地からの切なる要請に応えて、日本の皆さまのおかげで、ＭＣＬでは１８の保育所、初等小学校を１つ完成。これからさらに保育所を７カ所と、下宿小屋一カ所を建設予定です。

ビニアフィローリス：
藤岡私立幼稚園協会＊水沼武彦

マキララの山岳地域に建設。移民系カトリック、イスラム避難移民、バゴボ族が混在する地域。

２０００年頃にＮＰＡによる反政府運動が盛んで、戦闘が絶えず起こった。現在もその影響下にある。

ミンダナオ子ども図書館との関係は長く、スタッフのマージー（ジェックジェク）がこの地の出身。クリスチャンの村だけではなく、イスラムの村にも読み語りで訪れている。

カヨパトン：窪田まゆみ

山岳のマノボ族の地域。学校までも遠く、到達するには、４WDで川を渡り、急坂を登る。

非常に貧しい先住民族の地域で、米はむろんのこと、トウモロコシやカサバ芋でさえ、３食たべられない家族が多い。

普段は、子どもたちは、衣服もろくになく、裸に近い生活をしている。開所式の後、バナナの葉のお皿にご飯をのせて、夢中になって食べている子どもたちの姿などは、ウエッブサイトに掲載。（検索『ミンダナオ子ども図書館』）

グマイ：宮崎朱美

グマイは、マノボ族とイロンゴ系移民が共存している地域。ミラノ宣教会のイタリア人、ピーター神父の活動地域でもあり、種族の違いを超えて、人々は比較的平和に暮らしている。

農業などの事業も、プランテーション化を拒否して独自の有機農法を展開。ＭＣＬとのつき合いは長いが、近年地元からの強い要請があり、保育所を建設。とりわけ貧しいマノボ族の子どもたちのためにスカラシップを展開している。

トトロが住んでいそうな大きな木がある。

マティアス：久岡隆行

グマイと反対側の丘陵地帯にある貧しい集落。

おもにクリスチャン系の移民の村。保育所から、ミンダナオのアラカン方向の広大な高原が見渡せる。移民系クリスチャンの入植地であるが、プランテーション化を拒否、貧しいけれども多くの家族が生活している。。

ミンダナオ子ども図書館では、先住民族やイスラム地域と同時に、クリスチャン系移民の貧困地域にも、わけへだて無く支援をし、奨学生を採用するように心がけている。

開所式での子どもたちののびのびとした歌声が印象的。

ケロハス：松岡なつめ

ミンダナオ子ども図書館から車で２時間、さらにそこから山や谷を徒歩で１時間以上歩いて到達できる、非常に辺境のマノボ族の集落。

その行程の美しさと大変さは、ウエッブサイトでも紹介（検索：「ミンダナオ子ども図書館」）

集落には、純粋なマノボ文化が残っていて、開所式では、マノボの装束を着た子どもたちが踊りを踊ってくれた。（下の写真）学校まで、１０キロ以上の道のりで、小学校を卒業した子もほとんどいない。

ＭＣＬの保育所支援に関して

皆様方の支援で、保育所建設が進んでいます。

おかげさまで多くの子どもたちが、保育所を経由して､学校に通う事が出来るようになりました。

保育所が集落に出来ることによる村人の喜びは大きく、子どもの未来、教育にかける親の意欲も違ってきて、村全体が明るく、希望に満ち、活気が出てきています。

保育所建設を契機に、ＭＣＬでは、里子、ひいては高校生、大学生のスカラシップを採用し、広い視野を持って育った若者たちが、将来、自分の村、ミンダナオの平和や発展、文化保存のための活動を開始して行きつつあります。

地域初のマノボ族の看護婦、先生、ソーシャルワーカーも誕生し、子どもの病気や教育、社会的なケアに従事。貧困社会の希望の灯火となっています。

皆さん、本当にありがとう、支援して下さった方々、ぜひぜひぜひ・・・一度現地にいらして下さい。どんなに村人や子どもたちが喜ぶことか！ご案内いたします。

より詳細な報告と写真は、ウエッブサイトに掲載してあります。

（検索：「ミンダナオ子ども図書館」）

保育所支援応募方法

振替用紙に「保育所支援」と明記して、一括で振込み。

一カ所３０万円で建設可能です。

毎年１０月号で、現地の子たちと保育所が写っている写真をお届け！

Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない
私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも
はるかに美しいと感じるときだってある。
けれども、どうにもならないのが、
お金が無くて学校に行けないときと
病気になっても病院に行けないとき・・・

ミンダナオ子ども図書館方法

１、医療や読み聞かせ活動を支援して下さる方々へ・・・自由寄付

専用の振り込み用紙をご請求いただくか、直接下記の振替口座にお願いいたします。
寄付をいただいた方々には、ミンダナオより年四回季刊誌「ミンダナオの風」
をお送りしています。

２，大学生高校生スカラシップ支援の方へ・・年額６００００円（月額５０００円）

振り込み用紙の通信らんに「スカラシップ」と書いて、一部振り込んでいただければ、
年四回の季刊誌と手紙、７月プロフィール、２月スナップ写真、５月成績表などが届きます。
文通やプレゼントも可能です。訪問の際は、自宅にご案内します。

３，里親支援（小学生）・・・年額２４０００円（月額２０００円）

振り込み用紙の通信欄に「里親」と書いて、一部振り込んでいただければ、年四回
季刊誌と２月に絵手紙、７月プロフィール、２月スナップ写真が届きますが、
文通やプレゼントも可能ですが、返事は半年ほど後になる可能性があります。
訪問の際は、自宅にご案内します。

４、保育所建設支援・・・３０万円（一括振込みでお願いします）

振り込み用紙の通信欄に「保育所建設」と書いて振り込んでいただければ、年四回
季刊誌と１０月には毎年現地の保育所のスナップ写真。開所式参加や訪問も可能です。

５、古着等の物資支援：詳しくはウエッブサイト参照「検索：ミンダナオ子ども図書館」

郵便振替口座番号　００１００　０　１８０５７
加入者名　『ミンダナオ子ども図書館』

スカラシップ・里親に関する質問、または現地訪問その他に関する問合せは、
現地の松居友に直接メール、ファックス、携帯電話でご連絡いただければ幸いです。
携帯電話（フィリピンおよび日本直通）：０８０－５５０２－３４４６（松居友）
ファックス専用　KDD 利用 001010、ソフトバンク 010 の後に 63-64-288-5426（松居友）
Eメール：mclstaff@zar.att.ne.jp（松居友）ウエッブサイト検索：『ミンダナオ子ども図書館』
MCLジャパン（日本事務局）：〒803－0816　福岡県北九州市小倉北区金田2－8－30－1201
Tel・Fax　093－581－1150
現地住所：Mindanao Children's Library : Brgy. Manongol Kidapawan City Cotabato 9400 Philippines